

# 古神宮古墓発掘調査報告書

平成6年度

倉吉市教育委員会

倉吉市教育委員会  
氏寄贈

こしんぐう  
古神宮古墓発掘調査報告書



遺跡略号 9DKK

<10>0050052737

平成6年度

倉吉市教育委員会

## 序

この報告書は、平成6年度に国・県の補助を受けて、倉吉市国府において実施した古神宮古墓発掘調査の記録です。

古神宮古墓は、当初中世墓の存在を想定しておりましたが、調査の結果、落し穴・道状遺構・近世両墓制の埋墓を検出しました。

発掘調査に当たりまして、ご理解とご協力をいただきました土地所有者の田中幸男氏、並びに地元の方々、また記録的な猛暑の中で現場作業に従事していただいた方々に心から感謝を申し上げます。

平成7年3月

倉吉市教育委員会

教育長 小川 幸人

## 例 言

1. 本報告書は、平成6年度に倉吉市教育委員会が、国・県の補助を受け倉吉市国府宇古<sup>こじん</sup>宮<sup>みや</sup>において実施した発掘調査の記録である。

2. 発掘調査団は次のような組織・編成である。

団 長 小川 幸人（倉吉市教育委員会教育長）

調査委員 名越 勲（倉吉市文化財保護審議会会長）

手嶋 義之（倉吉市文化財保護審議会委員）

調 査 員 根鈴 輝雄（倉吉博物館学芸員）

眞田 廣幸（文化課文化財係係長）

森下 哲哉（文化財係主任）

根鈴智津子（文化財係主事）

竹宮亜也子（文化財係主事）

加藤 誠司（文化財係主事）

岡本 智則（文化財係主事）

竹中 孝浩（鳥取県教育委員会派遣調査員）

高取 英雄（鳥取県教育委員会派遣調査員）

調査補助員 山根 雅美

事 務 局 福井 輝夫（教育次長）

生田 淳美（文化課課長）

中原 拓志（文化課課長補佐）

猪口 洋志（文化財係主事）

高山 りさ（文化財係主事）

内務整理 泉 美智子・松田 恵子・世浪由美子・妻藤 岩江・松嶋あつ子・青戸 「秋

谷崎 恵子・竹歳 暎子・児玉美佐子

3. 現場での調査は、加藤・岡本が担当し、高取の援助を受けた。遺物実測は加藤が、遺構の図面整理・遺物の浄書は加藤・泉・松田・世浪・妻藤が行った。遺構・遺物の写真撮影は加藤・岡本が行った。

4. 本書の執筆は、Ⅰ・Ⅲ・Ⅳは加藤が、Ⅱは岡本が担当した。編集は松田が担当した。

5. 第1図（地形図）は、建設省国土地理院発行の1：50,000地形図「倉吉」「大山」の一部を複製・加筆したものである。第2図は、平成元年修正測量の1：2,500 国土基本図倉吉市平面図を使用した。

6. 挿図中の方位は、特に注記を行わない限り国土座標第Ⅴ座標系の北をさす。

7. 遺物に付した記号・番号は、本文・挿図・図版で統一している。

8. 調査によって得られた資料は、倉吉博物館に保管している。

## 本文目次

I 発掘調査に至る経緯	1
II 位置と歴史的環境	1
III 調査の概要	2
1. 遺構	4
2. 遺物	5
IV まとめ	5

## 挿 図 目 次

第1図 倉吉市周辺の地形と遺跡分布図	3
第2図 古神宮古墓調査区位置図	4
第3図 調査前地形測量図	6
第4図 遺構全体図、落し穴遺構図・出土遺物図	7
第5図 溝・道状遺構遺構図	8

## 図 版 目 次

図版1 遺跡 調査前全景 調査後全景
図版2 遺構 落し穴 道状遺構 道状遺構断面ベルト
図版3 遺物 黒曜石剥片・壺形埴輪 土師質土器皿

## I 発掘調査に至る経緯

平成5年7月倉吉市国府字古神宮で、農地造成の実施段階であるとの通報が、倉吉市教育委員会にあった。そこは昭和58年度に発掘調査を行った打塚遺跡<sup>(45)</sup>に隣接し、以前より墳丘状の高まりの所在が知られていた。このため市教育委員会は現地に行き、土地所有者で造成計画をされた田中幸男氏と面談し、発掘調査が必要である旨を伝えた。そして、田中氏及び県教育委員会文化課と協議し、平成6年度に国・県補助を受けて発掘調査を実施することになった。調査は当初、開発面積の580㎡で行ったが、調査中に方形の高まりが遺構でないことが判った。このため調査範囲を、調査地北側と西側の削平されない部分は調査対象から除外し、削平される部分は試掘溝により土壌を確認した212㎡について発掘調査を継続した。発掘調査は、倉吉市教育委員会が主体となり、平成6年6月21日～8月5日まで行った。

(注) 眞田廣幸『打塚遺跡発掘調査報告』 倉吉市教育委員会 1983年

## II 位置と歴史的環境

古神宮古墓は、倉吉市街地より西方に約2.5km離れた倉吉市国府字古神宮850-2番地に所在する。当該地は、天神川の支流国府川の左岸、国府地区の北端にあり、久米ヶ原丘陵の南西から北東側に延びた丘陵北側斜面の標高約30m付近にある。遺跡の周辺は、洪積性の大山(標高1771m)の火山活動によって形成された丘陵が、なだらかな起伏をもって広がっている。丘陵の間には、浸食作用によって形成された細長い谷が枝状に入り組んでいる。遺跡の北側には、安山岩を基盤とする四王寺山(171.6m)が迫り、丘陵との間に狭い谷を形成している。古神宮古墓と、北側の水田面の比高差は、約5mである。

古神宮古墓周辺には多くの遺跡が分布している。

旧石器時代の遺跡は、ナイフ型石器の出土した長谷遺跡・中尾遺跡(57)がある。

縄文時代の遺跡は早期から晩期まで見られるが、その数は少ない。前期を中心とした84基の落し穴が調査された中尾遺跡、中期から後期の落し穴や尖頭器が出土した長谷遺跡、晩期の土器が出土している平林遺跡(60)、晩期の配石遺構が検出された松ヶ坪遺跡などがある。

弥生時代の遺跡は、向山丘陵の西側に展開する丘陵上に多く営まれる。遠藤谷峰遺跡(48)・白市遺跡(49)・中峯遺跡(50)・沢べり遺跡(1次58・2次59)・福田寺遺跡(71)などの集落跡、三度舞墳丘墓(42)・大谷後口谷墳丘墓(51)などの墳丘墓がある。

古墳時代の集落跡の多くは弥生時代から引き継がれたものが多く、猫山遺跡(28)・西前遺跡(29)・平林遺跡・榎塚遺跡(66)・宮ノ下遺跡(67)などが営まれる。集落跡以外にも多量の祭祀遺物が出土した谷畑遺跡(23)がある。前期古墳は、方墳からなる猫山遺跡、菱風鏡・三角縁神鏡など三面の船載鏡が出土した国分寺古墳(64)、楕形石や琴柱形石製品の出土で

知られる上神大将塚古墳(40)がある。古墳群は約 500基確認されている向山古墳群(61)をはじめ、上神古墳群(16)・曲古墳群(30)・土下古墳群(34)など、いずれも 200基前後の中期から後期の円墳を主体として周辺の丘陵に数多くの古墳群が築造されている。また、沢べり遺跡(2次・59)では、5基の群集した帆立貝式古墳や人物埴輪が出土している。

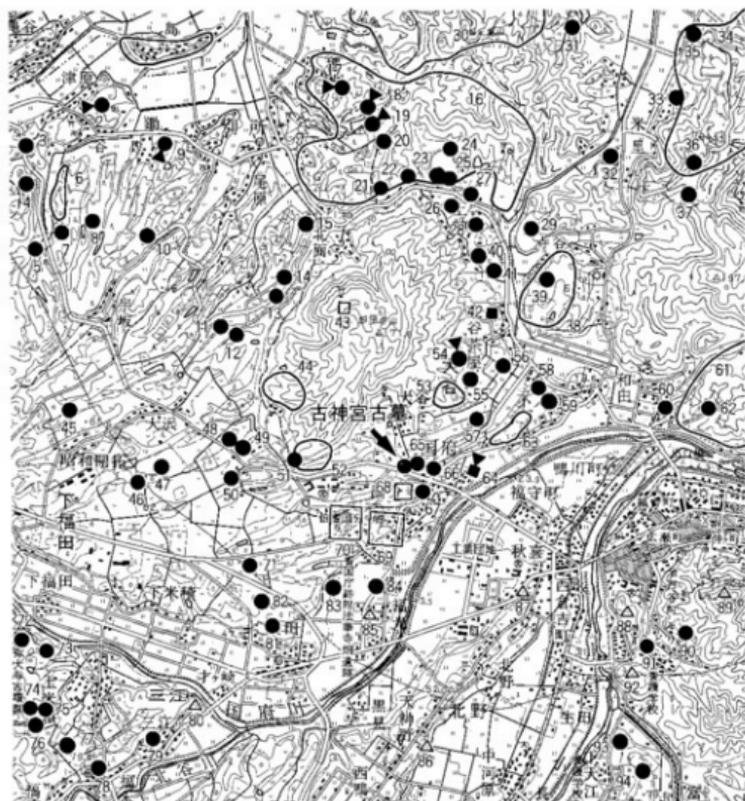
奈良時代には久米ヶ原丘陵の東端部に、伯耆国庁(70)・国分寺(69)・国分尼寺(68)が近接して設けられ、不入岡遺跡(63)では、官衙跡と考えられる大型建物群が確認されている。また、平林遺跡・西前遺跡・西山遺跡(25)・矢戸遺跡(81)・島掛遺跡(83)などが点在する。

平安時代は古神宮古墓と隣接して墳墓が出土した打塚遺跡(65)がある。

### Ⅲ 調査の概要

発掘調査は、当初中世墓あるいは古墳と考えていた方形の高まりの辺に合わせ十字にベルトを設定し、掘下げを行った。盛り土中は土師器、土師質土器を包含していたが、表土から約 1m 掘下げた時点で埋葬施設が検出されず、ホーキ火山砂と始良・丹沢火山灰(A・T)のブロックを、多量に隙間がある状態で検出した。そのため、ベルトに沿ってサブトレンチ(試掘溝)を設定し、旧表土面まで掘下げた。旧表土面から現代の瓦・電球のガラス片が出土したため、方形の高まりは遺構ではないと判断した。このため調査方法を変更してバックホウにより土を除去し、その後ホーキ火山砂上面で遺構の検出を行った。この際、調査地北側の開発によって掘削を受けない部分については、調査対象から除外して調査した。調査区の西側は、ホーキ火山砂が検出されなかったのでトレンチを設定し掘下げたところ、約 2m の深さで平坦面を検出した。このため開発による削平が及ばないことが判ったので、そのまま埋め戻した。

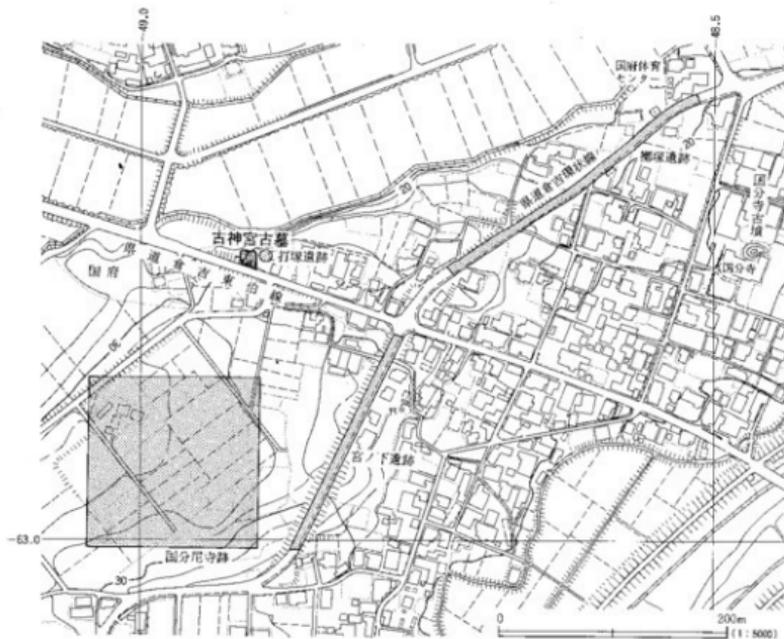
1 島遺跡群	13 一反半田遺跡	25 西山遺跡	37 米里第 2 遺跡
2 大塚山古墳	14 取木遺跡	26 東狭間古墳	38 犀峯山古墳群
3 清水谷尻 1 号墳	15 イキス遺跡	27 トドロク遺跡	39 屋敷山 9 号墳
4 清水谷古墳群	16 上神古墳群	28 上神猫山遺跡	40 上神大将塚古墳
5 郊家平古墳群	17 上神 45 号墳	29 西前遺跡	41 栄業古墳群
6 願根後谷遺跡	18 上神 44 号墳	30 曲古墳群	42 三度舞墳丘墓
7 東鳥ヶ尾古墳	19 上神 48 号墳	31 島古墳群	43 四王寺跡
8 大仙峯遺跡	20 上神 51 号墳	32 米里銅彈出土地	44 古墳群
9 高鼻 2 号墳	21 上神 119 号墳	33 船渡遺跡	45 昭和開拓遺跡
10 大山遺跡	22 クズマ遺跡	34 土下古墳群	46 大道谷遺跡
11 コザンコウ遺跡	23 谷畑遺跡	35 土下 129 号墳	47 大沢前遺跡
12 道祖神峰遺跡	24 桜木遺跡	36 米里第 1 遺跡	48 遠藤谷半遺跡



第1図 倉吉市周辺の地形と遺跡分布図

(1:50000)

- |              |             |            |           |
|--------------|-------------|------------|-----------|
| 49 白市遺跡      | 61 向山古墳群    | 73 下小畑遺跡   | 85 今倉城跡   |
| 50 中津遺跡      | 62 向山309号墳  | 74 奥田遺跡    | 86 市場城跡   |
| 51 大谷後口谷墳丘墓群 | 63 不入岡遺跡    | 75 箕ヶ平遺跡   | 87 北ノ城跡   |
| 52 古墳群       | 64 園分寺古墳    | 76 後中尾遺跡   | 88 四十二丸城跡 |
| 53 大谷古墳群     | 65 打塚遺跡     | 77 後口谷遺跡   | 89 打吹城跡   |
| 54 大谷大将塚古墳   | 66 郷塚遺跡     | 78 福本家ノ上古墓 | 90 高野古墳群  |
| 55 小林古墳群     | 67 富ノ下遺跡    | 79 上野遺跡    | 91 雲才寺1号墳 |
| 56 イザ原古墳群    | 68 伯耆国分尼寺跡  | 80 砦跡      | 92 赤岩山砦跡  |
| 57 中尾遺跡      | 69 伯耆国分寺跡   | 81 矢戸遺跡    | 93 大畑遺跡   |
| 58 沢べり遺跡(1次) | 70 伯耆国庁跡    | 82 岩屋遺跡    | 94 山際古墳群  |
| 59 沢べり遺跡(2次) | 71 福田寺遺跡    | 83 烏掛遺跡    |           |
| 60 平ル林遺跡     | 72 阿弥大寺墳丘墓群 | 84 今倉遺跡    |           |



第2図 古神宮古墓調査区位置図

調査の結果、落し穴1基、溝1基、道状遺構1基、その他として捨て墓11基を検出した。捨て墓は、地元の方から聞き取り調査したところ、当該地は、明治時代から大正時代に国府地区の共同墓地であったことが判明した。そのため、断面図、骨の平面図は実測せず、完掘後の平面図を作成するのみにとどめた。

### 1. 遺構

**落し穴** 調査区の北東隅に1基存在する。平面形は楕円形、検出面での規模は $0.7 \times 0.6$ m、底面での規模は $0.7 \times 0.5$ m、検出面からの深さ1mである。埋土中より黒曜石の剥片が1片出土した。底部には杭跡がなかったが、穴の規模、形態や埋土の色から縄文時代の落し穴であると判断した。

**溝** 調査区北側の道状遺構の東に所在する。検出面での規模は、長さ6.76m、最大幅0.48m、最大深さ0.20mである。道状遺構と切り合っているが、新旧関係は不明である。遺構の性格は不明である。遺構の時期は、埋土中から土師器片が出土しており、古墳時代の可能性がある。

道状遺構 調査区中央に所在し、北西から南東方向にのびている。北西側は調査区外に続くため全体は不明である。検出面での規模は、長さ12.4m、最大幅 2.6mである。遺構の底部に30～80cm間隔、レベル差10cmの階段状の段があるため道であると判断した。埋土中より遺構の底から浮いた状態で須恵器片、土師器片が出土した他、古銭（寛永通宝）が1枚出土した。遺構の時期は、不明である。

捨て墓 調査区全体より両墓制の捨て墓を11基検出した。平面形は、円形7基、長方形2基、方形2基である。検出面での大きさは0.7～1.1m、検出面からの深さは0.4～1.0mである。人骨は、概して南側の高い位置のものは埋土が乾燥しており遺存状態が良かった。捨て墓内の遺物は、刀子・簪かんざしが各1、煙管が2出土した。捨て墓の時期は、明治～大正時代と考えられる。

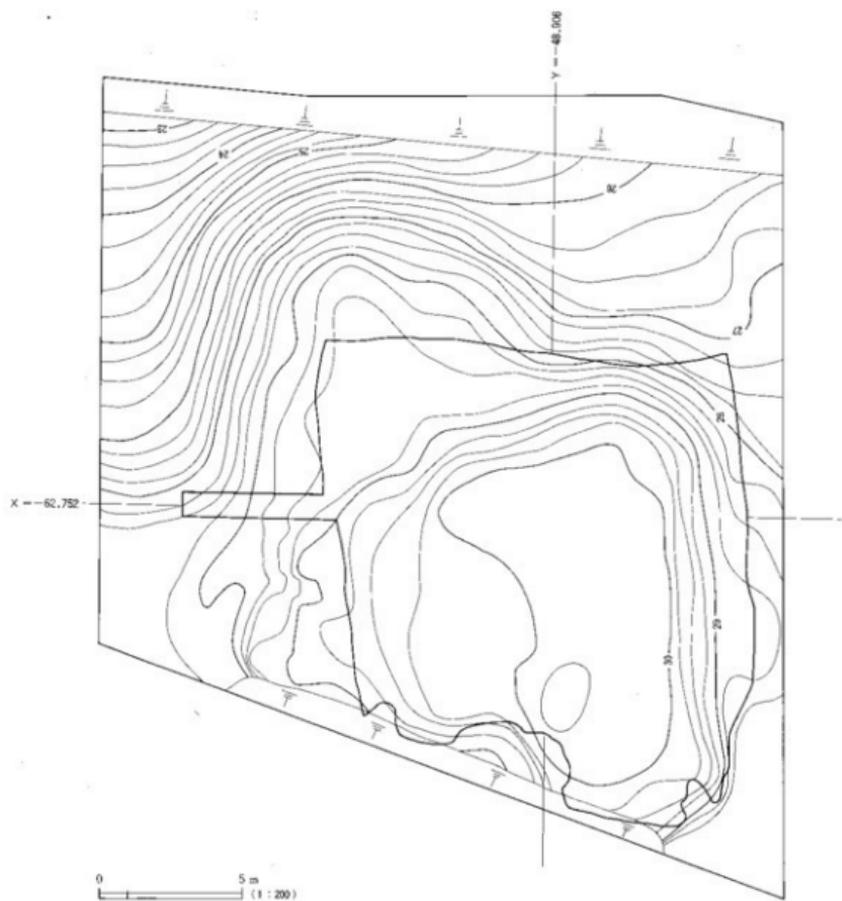
## 2. 遺物

遺構に伴う遺物で図化できる物は、落し穴から出土した黒曜石の剝片S1のみであった。また、調査区東端の黒色土中より壺形埴輪が3個体出土した。遺構に伴っていないが、まとめて出土していることから、付近に古墳があったものと考えられる。その他凹石が1個、土師器片、土師質土器の皿が数点出土した。また調査区の西側トレンチより宋銭（治平元宝、初鑄造年1064年）が出土した。

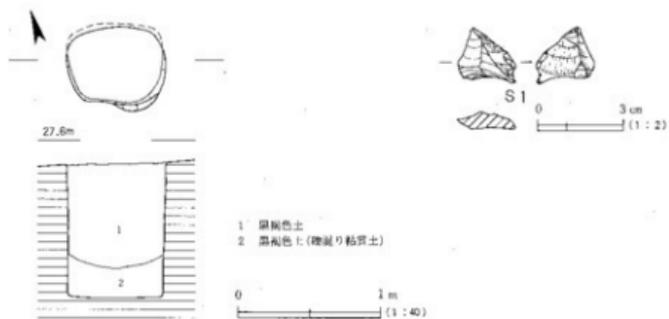
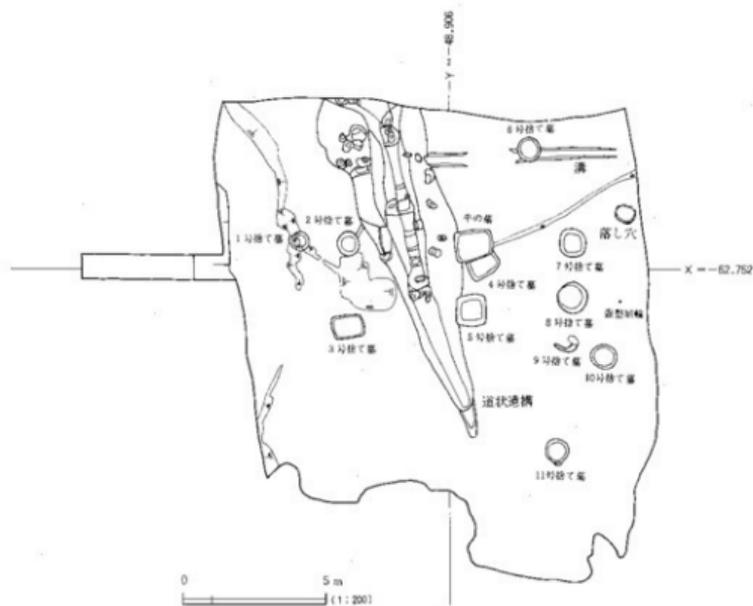
## IV まとめ

古神宮古墓の調査結果を整理することで、まとめにかえたい。発掘調査により、縄文時代の落し穴1基、古墳時代の溝1基、明治～大正時代の捨て墓11基、時期不明の道状遺構1基を検出した。遺構内の遺物は少なく、実測できたのは落し穴から出土した黒曜石の剝片のみであった。遺構外遺物としては壺形埴輪が3個体出土した。その他、捨て墓から刀子・簪・煙管が出土した。

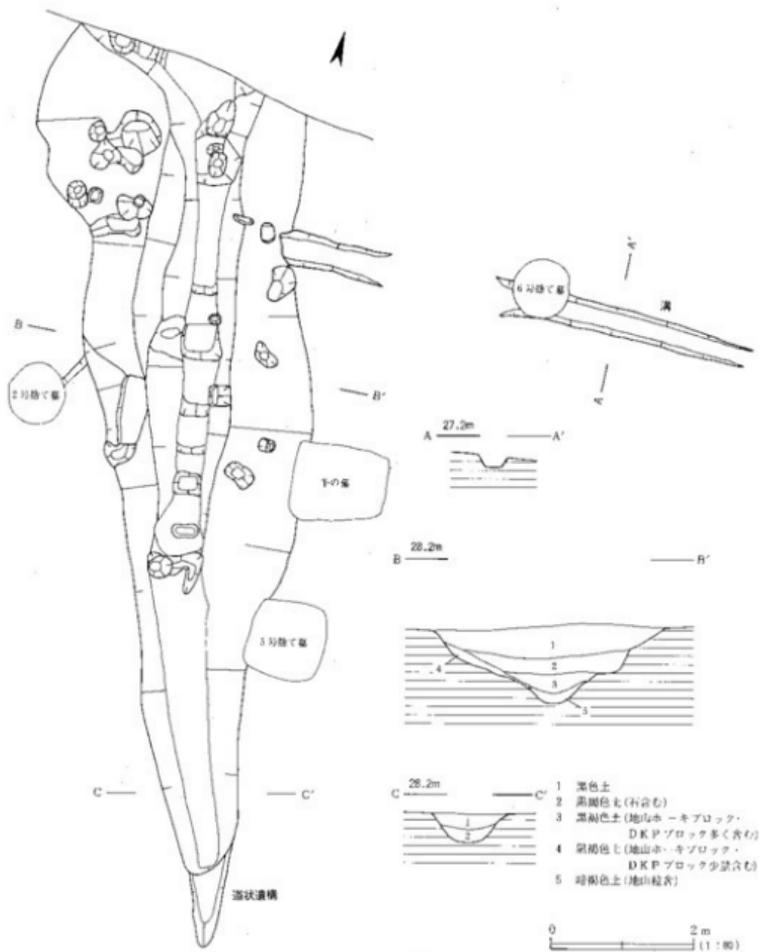
以上、調査結果をまとめたが、調査範囲が限定されているため遺跡の全容解明には至らなかった。今後、周辺の発掘調査例の増加を待って検討を図りたい。



第 3 图 调查前地形测量图



第4図 遺構全体図、落とし穴遺構図・出土遺物図

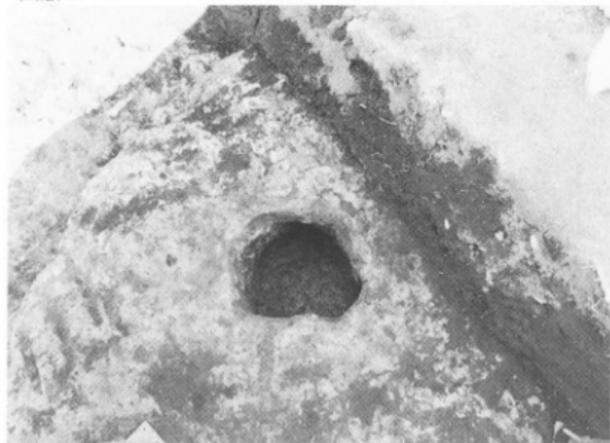


第5図 溝・道状遺構遺構図



▲調査前全景 (南より)

▼調査後全景 (南東より)



落し穴  
(南西より)



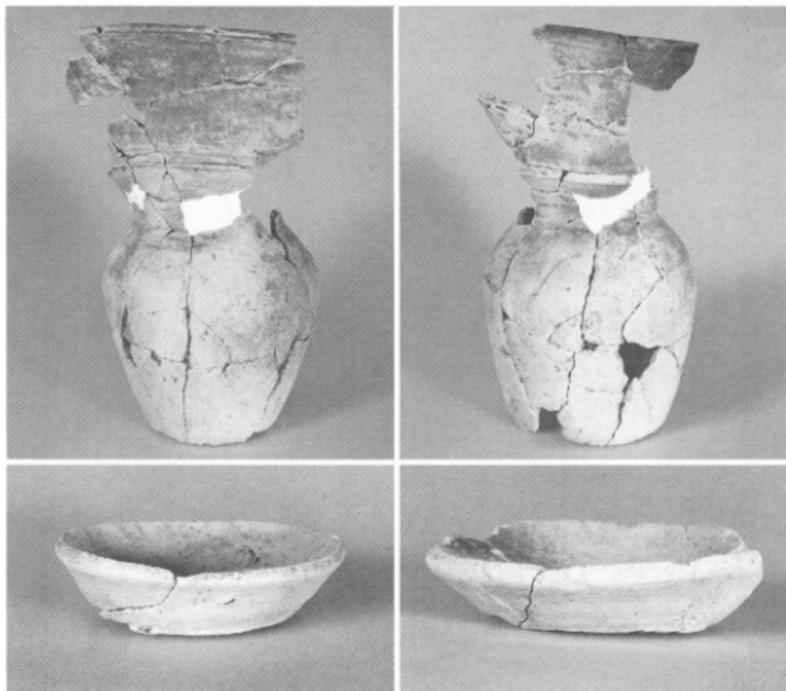
道状遺構  
(北より)



道状遺構断面ベルト  
(北より)



(1:1)



黑曜石剝片・壺形埴輪・土師質土器皿

## 報告書抄録

ふりがな	こしんぐう 古神宮古墓							
書名	古神宮古墓							
巻次								
シリーズ名	倉吉市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第81集							
編著者名	加藤誠司・岡本智則							
編集機関	倉吉市教育委員会							
所在地	〒682 鳥取県倉吉市英町722番地 TEL 0858-22-8111							
発行年月日	西暦 1995年 3月 20日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ***	東経 ***	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こしんぐう 古神宮古墓	とっとりけん 倉吉市 こしんぐう 古神宮	31203	9DKK	35度 25分 59秒	133度 47分 51秒	19940621~ 19940805	580	個人の農地造成に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
古神宮古墓	墓	近世	落し穴 溝 遺状遺構 捨て墓	1基 1基 1基 10基	黒曜石剥片1、凹石1、 土師器、須恵器、壺型 埴輪3、土師質土器、 宋銭(治平元宝)1	西幕制における捨て墓を検出した。		

古神宮古墓発掘調査報告書

平成7年3月20日 印刷

平成7年3月20日 発行

編集  
発行 倉吉市教育委員会

印刷  
製本 優成印刷有限会社